

オスメトリ。

〔東雅禽十七鳥〕護田鳥オスメドリ○中 オスメの義不詳、後俗ウスベといふは其語轉せしなり。鷦羽にウスベフといふ名あるは、其文此鳥に似たるをいふなり。或人の説に、方目本草綱目に見えたにパンといふ者なりといへり。李東壁が云ふ所の方目の如きは、此にいふパンに似てけり。もし其物ならんには、パンといふは鷦の字の漢音を轉じて呼びしなり。古語拾遺に、天鵝女神をカヌメと云ひしは、古語にオスシと云ひしは畏るべきの義也。此神女神なれど、おそろしき神なれば、かく云ひしとは見えたり。古語に鷦をよびてオスメとも、リスベとも云ひしは、その方目畏るべき義にやありけむ。又今の俗に鷦の字を用ひて、パンといふは然るべしとも思はれず。鷦は鷦の一名なりと見えたり。舜水朱氏は、此にパンといふもの、竹雞に似たれども非也。竹雞をヤマシキといふも亦非也。と云ひけり。漢人の繪がきし竹鷦を見しに非也。朱氏の説の如くにぞありける。

〔扶桑略記醍醐二十五回〕延長六年六月十八日白女鳥集南殿版位南令陰陽助氏守占其占云可有御藥事及火災。

〔貞信公記〕天暦二年九月二日午時碓女鳥九集宜陽春興殿間。

〔倭名類聚抄羽族名〕蒼鷺。崔禹錫食經云鷺又有種相似而小色蒼黑並有水湖間漢語抄

鷺美止佐木云蒼

〔箋注倭名類聚抄鳥名〕按蒼鷺美止佐伎並未詳當是五位鷺之類。

〔類聚名義抄鳥〕蒼鷺ミトサギ

〔本朝食鑑水禽〕蒼鷺。古訓美豆佐木今世稱阿於佐木。

釋名青鷺。今世俗用此名○中略

集解蒼鷺似鷺而大頭背翅蒼黑頂有冠毛亦蒼黑頭上至頸胸黑毛斑斑翅之端翮純黑觜外黑內黃腹白脚絲形態悉類鷺每步水中而捕魚鰐食飛則能高舉遠翔靜則傍蘆荻而拳足立眼其味最美勝于白鷺夏月賞之。

肉氣味甘平無毒主治止汗利小水。

〔親元日記〕文明十五年五月廿五日丁巳兵庫殿御進上青鷺二鯛一折以上長谷へまいる。